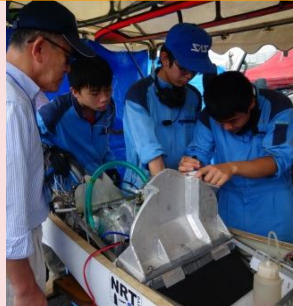


ものづくり ~持続可能な開発のための教育~



2019 HONDA エコマイレージチャレンジ全国大会 (新記録 2216.028 km/l) 5連覇

効率の良いエンジン、空気抵抗の少ないボディ、よく転がるタイヤの研究を積み重ね、「燃料消費効率」の向上を図る研究を繰り返し、毎年新車を製作しています。日々の部活動で培ったチームワークで連覇を継続中です。今年度は「デザイン賞」も受賞しました。



WRO Japan 2019

レゴブロックを用いたロボットをプログラムにより自動制御する技術を競います。千葉県大会では見事3位に入賞しました。



2019 NATS EV 競技会

鉛バッテリー用いた電気自動車で、2時間の走行距離を競うものです。電気自動車の基本的な技術を学びます。



地域イベントでの販売実習

地域コミュニティの輪に入り、農産物販売を通して自校商品知識の定着と、地域への愛着心を育みました。(年間9回)



風力発電コンペWINCOM

自作の風車を使って、発電量を競う大会です。発電技術と環境エネルギーについて学びます。

ひとづくり ~人と学ぶ 地域と学ぶ~



地域の教育力・人材活用(寮教育 教養講座)

寮教育では、地域の有識者を講師として教養講座を行いました。(6回) 農業と環境・国際理解・防災・日本食文化について学びました。



農林水産省による出前授業

第3回全国農業高校 農業大学校ホームページコンテスト 農林水産省経営局長賞(全国2位)

上記副賞として、農林水産省による出前授業が行われました。ドローンを活用したスマート農業に関する講演やドローンの操縦体験を通し、未来の農業について考えるきっかけとなりました。



地域特産物の共同栽培

小学4年生とサツマイモの定植・観察・収穫を行いました。生徒の発案で紙芝居やクイズなどの「教える工夫」が見られました。



春・秋の農場見学「季節を見つけよう」

小学2年生に本校農場を見学・案内しました。作物の栽培の様子や変化から、季節の移り変わりを感じ取ってもらいました。



食育支援

中学1年生の「技術・家庭」で授業補助を行いました。本校のナシを使って、品種の特徴や食べ方について指導しました。



学科の専門性を活かした授業支援

小学6年生に対し、専門性を生かしたプログラミング授業を展開しました。情報処理科では、パズル感覚で学習できる『Scratch』を、自動車科では、ハードウェアを用いてLEDの点灯や音を出すについて指導しました。プログラミングを指導しました。

令和元年度『お兄さんお姉さんと学ぼう事業』指定校

夢づくり ~資格は夢へのパスポート~

(過去3カ年の実績)

3級自動車整備士(国家資格)	39名		
3級機械検査技能士(国家資格)	43名		
全商ビズ初文書実務検定	3級 111名	2級 39名	1級 2名
全商簿記実務検定	3級 70名	2級 22名	1級 1名
全商情報処理検定	3級 105名	2級 53名	1級 4名
日本農業技術検定	3級 73名		
アーク溶接特別教育	271名		
ガス溶接技能講習	251名		
フォークリフト運転特別教育	350名		

専門の学びを通じた今年度の実績

- ・本田宗一郎杯 ホンダエコマイレージチャレンジ2019 **全国大会優勝【5連覇】**
- ・2019 WINCOM 風力発電コンペ(水平軸部門) **優秀賞** (主催:日本大学生産工学部)
- ・第68回千葉県学校農業クラブ連盟研究発表大会 **プロジェクト発表 区分【生産・流通・経営】3位入賞**
- ・2019 NATS EV競技会ジュニアクラス **第3位**
- ・耕作放棄水田の活用に関する研究(代替作物:マコモ)
- ・地域の有効資源活用に関する研究(酒粕・モミ殻)
- ・ユネスコスクール活動:ペットボトルキャップ回収・書き損じはがき回収 イベントボランティア

ものづくり・ひとづくり・夢づくり

千葉県立下総高等学校

園芸科・自動車科・情報処理科



United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization



Member of UNESCO Associated Schools

令和元年度魅力ある学校づくり大賞 応募概要（千葉県立下総高等学校）

1 目 的

豊かな人間性を基盤とした職業教育の充実を図り、生徒一人一人の個性や能力を活かしながら、持続可能な地域社会を支える人材の育成を目指している。これを実現するために「ものづくり・ひとづくり・夢づくり」を学校スローガンとして掲げ、以下のことに取り組んでいる。

(1) 「ものづくり」

農業生産実習において基礎・基本を重視した高品質農産物の栽培に関する知識・技術を修得させる。また、自動車を教材として工業基礎技術の基本的習得を図り、日々学んでいる知識や技術を利用し、持続可能なエネルギーの有効利用について学ばせる。

(2) 「ひとづくり」

地域住民や近隣小中学生と共に学び合うことで、社会性や道徳心を養うとともに、教えることにより学習内容の理解を深めさせる。また、寮教育や学校行事等で積極的に地域の教育力を活用していく。地域イベントに参加し、他者と関わることでコミュニケーション力をつけさせる。さらに、ユネスコスクールの理念を学校行事に組み入れることで、持続可能な社会づくりに貢献する人材を育てる。

(3) 「夢づくり」

生徒一人一人が各自の目標を設定し、困難なことに挑戦し、将来の自己実現・進路実現を目指す。

2 成 果

実習生産物や身に付けた知識・技術を活かし、外部イベントや各種大会に積極的に出場し、外部評価を受けることで自信や自己肯定感を醸成する。

- (1) 2019 HONDA エコマイレージチャレンジ全国大会 優勝（5連覇） デザイン賞受賞
- (2) WRO Japan 2019 千葉県大会 3位
- (3) 2019 NATS EV 競技会 3位
- (4) 2019 WINCOM 風力発電コンペ 平行軸部門 2位・水平軸部門優秀賞
- (5) 第68回千葉県学校農業クラブ連盟研究発表大会プロジェクト発表 区分【生産・流通・経営】 3位
- (6) 地域外部イベントでの販売実習（年間10回）
- (7) 各種資格試験の受検率及び合格率の向上

3 準備段階・実施段階の工夫

- (1) 学校設定科目「ベーシック I」を設定し、専門的な知識・技術を身に付けるための基礎となる義務教育分野の学び直しを1年次に国語、算数、英語について復習させる。
- (2) 科目「課題研究」の展開方法として、3学科が同時展開できるような時間割とする。これにより学科の壁を越えた課題設定を行い、共同研究を可能とする。
- (3) 近隣小中学校（成田市立下総みどり学園）と教育連携を積極的に実施する。連携内容を双方の年間指導計画に位置付けることで、連携教育の目的を明確にし、準備や実施を円滑に進めることができる。年度末の反省を共有し次年度に活かすことで、より教育効果を高めることができる。
- (4) 4月に全校生徒に校長が学校生活に関する「目標申告」を行わせる。生徒個々に見合った目標を設定させることで、達成度を高め、学校生活の意義や資格取得などの学習意欲をもたせる。

4 広報活動とその結果

各諸活動において、学校ホームページで活動内容について頻繁に掲載し、中学生や地域の方に生徒の取り組みを見ていただけるように工夫している。その結果、第3回全国農業高校・農業大学校ホームページコンテストにおいて2年連続入賞し、農林水産省局長賞（全国2位）を受賞した。

- (1) 「農林水産省による出前授業」（農林水産相経営局長賞副賞） 6/9 読売新聞・日本農業新聞に掲載
- (2) 2019 HONDA エコマイレージチャレンジ全国大会 優勝（5連覇）& デザイン賞受賞
10/10 千葉日報と 10/19 エリート情報（北総地区広報誌）に掲載

5 取り組みへの反響

- (1) 自動車部：令和元年度成田市表彰式（於：成田市役所）にて全国大会実績について表彰。
- (2) スマート農業に関する「農林水産省出前授業」に千葉県農林水産部の職員及びが研修として参加。